

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	集団採取用フットプリンター配備事業
事業主体 (連絡先)	学校法人佐久学園 (電話：0267-68-6680)
事業区分	保健、医療、福祉の充実に関する事業 他
事業タイプ	ハード
総事業費	2,364,940円 (うち支援金：1,773,000円)

事業内容

学校法人佐久学園が開発した足裏測定装置（フットプリンター）を増産することにより、イベント等でのスムーズなフットプリント採取が可能となった。

- フットプリンターの増産
事業において、5台増産。現存1台を合わせて6台体制とした。
- フットプリントの集団採取
 - 市内小学校でのフットプリント採取
増産により、従来、1学年のみの実施していたが、全校児童へ拡大実施が可能となった。
 - 市内等イベントへの参加
来場者の待ち時間が無くなり、多くの地域住民の方々に足育の重要性を啓発できた。12イベントで約1,300人の足型を採取。



【佐久市民の日協賛イベント】
H31年3月9日

【目標・ねらい】

- ①足型集団採取が可能な機器台数
- ②足育の重要性の啓発
- ③フットプリンター操作者数増加
- ④「快適健康都市 佐久」への貢献

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 開発機（フットプリンター）増産による効果
フットプリント採取のスピードアップ
従来のインク式（手動）に比べ数倍のスピードアップが可能となった。
[実績]佐久市民の日健康イベント
H29年度（手動）約100人→H30年度（自動）約200人。
- フットプリンター操作者数の育成
機械化することでフットプリント採取がしやすくなり、佐久学園教職員で11名、市内小学校教職員で13名、計26名の操作者を育成できた。

※自己評価【B】

【理由】
地域住民のフットプリント採取数など、当初計画したが、数字的な目標は果たせなかったものの、中央日本4県サミットなど、県外までの啓発活動が行えたことはとても有意義な事業であったと考えます

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

フットプリンターを重要ツールとして足育の啓発活動を更に推進して参ります。今後の課題は、

- ①機器の精度を上げること
- ②集団採取での担当者の育成（測定の簡便化と、マニュアル制定、統一した測定手順）、測定後のスクリーニングのための基準提示

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある